

氏名	田原 奈生
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第684号
学位授与年月日	令和8年3月19日
審査委員	主査 教授 藤谷 昌司 副査 教授 新野 大介 副査 教授 林 健太郎

論文審査の結果の要旨

神経原線維変化型老年期認知症 (SD-NFT, Senile Dementia of the Neurofibrillary Tangle type) は、海馬領域に神経原線維変化 (NFT, neurofibrillary tangle) が高度に認められる一方で、老人斑をほとんど欠く認知症である。臨床像はアルツハイマー病と酷似しており、確定診断には病理学的検討が必須である。

海馬硬化 (HS, hippocampal sclerosis) は、海馬CA1領域における神経細胞脱落およびアストログリアーシスの特徴とする病理学的変化である。HSと認知症との関連は主としてアルツハイマー病で検討されてきたが、SD-NFTに関する検討は乏しい。本研究では、SD-NFTにおけるHSの病理学的特徴を検討した。

愛知医科大学加齢医学研究所において、1994年～2022年に施行された連続剖検例のうち、病理学的にSD-NFTと確定診断された症例を対象と、合併病理の認めた症例は除外した。対象は9例で、このうち3例 (33.3%) にHSを認めた。HS群では、海馬CA1におけるghost tangle、およびNFT + ghost tangle密度は、それぞれ $261.0 \pm 104.2/\text{mm}^2$ 、 $290.7 \pm 103.0/\text{mm}^2$ であり、いずれも非HS群より多かった (順に $p = 0.024$ 、 0.048)。

本研究により、SD-NFTの中にHSを呈する一群が存在すること、およびHSの病態形成にNFTが関連している可能性が示唆された。HSは最も頻度の高い認知症であるアルツハイマー病の病因にも関与しうると考えられているが、本研究はHSがSD-NFTにおいても起こり得ることを示した点で大変意義深い研究である。本研究は認知症の病態解明に資する重要な神経病理学的研究であり、博士 (医学) の学位授与に値すると判断した。